

議会がチェック！！

12月定例会では、村長から提出された「令和元年度決算」の審査を行うため、2日間にわたる予算編成に生かすため、審査を行いました。委員からどのような指摘・要望があったの

歳入

ふるさと納税

問 元年度と2年度の収入額は。(清水)

答 元年度 107万6,175円、2年度 757万7,000円(12/15現在)。2年度は、ふるさと感謝券やふるさとチョイスを導入。(財政課長)

航空路開設

問 参与への報酬が120万円。どのように活用しているのか。(清水)

答 7年前から設置。行政の特定分野について専門的な立場から、政策に資するための助言を受けている。(企画政策室長)

歳出

働き方改革・ICTの活用

問 村の職員人件費約9億8,200万円のうち、時間外勤務手当は8,100万円、総額の1割弱にあたる。人件費等財政の中で大きな部分を占めるものを今後弾力的に圧縮するには、インターネットなど活用しながら、より効率的な働き方をしていく必要があると感じている。令和3年度の予算に生かしてほしい。(清水)

答 村では従前からネット環境を整備し、効率的に利用していた。令和2年度はコロナ関連事業などで業務量がむしろ増えたが、よりいっそう成果として出てきている。(副村長)

答 定期船の運航に合わせて事業、業務が行われていることも、時間外勤務が多い要因だが、精査していかなくてはいけない部分。(村長)

防災訓練

問 近地地震による津波を想定した防災訓練の取り組み状況は。(金子)

答 南海トラフ大地震は今後、必ず起こる。津波災害の襲来は避けられない。津波警報発令、即避難は近地地震と南海トラフに共通する課題。個別のパターンを含め実施の計画をしたい。(総務課長)

災害復旧

問 台風21号の災害復旧費に、9,400万円の補正予算を即座に付けていただいたが、執行率は60%程度。事業の未執行が多いからだが、改善策は。(金子)

答 特に母島の未執行事業について様々議論をしている。個々に可能な事業を調整している。(副村長)

り決算特別委員会が開催されました。「予算の使い方は適正かつ効率的であったか？」次
年か、その一部をご紹介します。

診療所運営費

問 前年度比較で約4,000万円支出減。コ
スト削減の要因は。(清水)

答 ジェネリック医薬品の活用。父島・母
島両診療所の医療連携も。(医療課長)

問 今後リモート診療等の考えは。(清水)

答 電話再診での薬の処方等は、すでに実
施。(医療課長)

商工観光会館管理

問 Bしっぴの空調設備取替工事では1基更
新して185万円という金額。建物の雨もり
でパソコンや書類への被害も懸念されてい
る。今後の課題に掲げている躯体、空調設
備等の計画的な更新の進捗は。(金子)

答 令和元年度1基の空調設備の更新を
し、6月に発注したものの、工事が完了し
たのが9月。一番暑い時期に利用者に迷惑
をかけた。2年度にまた空調設備を更新し
たが、そこは前年の反省を踏まえ計画的に
早めに工事を行った。(産業観光課長)

墓地管理運営

問 父島の旧墓地の墓石が崩落している。
村の対応は。(安藤)

答 村の管理ではなく、手を付けられな
い。ボランティアによる草刈り等にかかる
燃料費については要望を受け、村が予算を
計上している。(村民課長)

特産品開発普及センター管理

問 ラム酒を小笠原の酒としてもっと広め
る工夫は。(安藤)

答 島内・外でのイベントなどで試飲を行
い、普及を図っている。(産業観光課長)

答 島内飲食店へ量り売りで割安に提供し
ている。ご提案のポケットサイズのボトル
販売は、工場の製造ラインにも限界があ
る。引き続き採算性、費用対効果を考え検
討。(母島支所長)

農業用水

問 渇水対策、農業用水確保について、村と
して独自の検討は。(安藤)

答 抜本的な改善はかなりの経費がかか
る。東京都へ要望をしている中、案はでき
つつあるので、今後進んでいくと考える。
(産業観光課長)

評議平運動場管理運営

問 フェンス取替工事を視察した。フェンス下の雑草対策が改善していない。学校や保育園など大規模な施設整備が予定されているが、その後の維持補修費も莫大なものとなる。慎重かつ計画的な財政運営に努めてほしい。(安藤)

答 評議平運動場は土地の形状が複雑なため、ガンコマサやコンクリート舗装をするとかなり高額となるため断念した。ガンコマサについては半永久的に維持できるものではない。耐久性も見据え引き続き中長期的な視点で経費の削減に努めていく。(教育課長)

ローズ記念館管理

問 雨漏り補修の計画は。(築館)

答 大雨が長く続くと雨漏りする状況。現在具体的な検討に進んでいるところ。シュロッパ(シュロ葉、オガサワラビロウの葉)葺きの工法ができる職人が限られているので、景観を配慮しながら瓦葺きに変更することも東京都に相談したが、できる限り現状の形を維持するように言われている。工事ができるかできないか、維持ができるかが最終的な判断になる。(教育課長)

杉田委員長より… ローズ記念館を建てた際、シュロッパ葺きの作業は最初から最後まですべてビデオで記録し、村役場に提出している。ぜひ探してみては。

令和元年度小笠原村一般会計及び特別会計歳入歳出決算を認定について 元年度決算を認定

令和元年度決算は、委員会での審査の後、本会議で採決を行い、すべて認定しました。

委員会からは特に以下の点を指摘、令和元年度決算についてはすべて認定すべきと議長に報告しました。

決算特別委員会からの意見

- ・ネズミによる深刻な被害が父・母島両島で急増している。対策を。
- ・村所有の施設・住居・物品・車両等は、適正な管理を。
- ・未執行事業の増加について、原因究明を図り対策を。
- ・コロナ禍について、適正な予算の作成、執行を講じられたい。
- ・行政需要の増に対応するべく職員の人材育成と、定数増も含めた積極的な施策の検討を。

一般会計決算

歳入総額	47億6,298万4,115円
歳出総額	45億1,427万9,985円
歳入歳出差引残額	2億4,870万4,130円
執行率	95.4%

特別会計決算

歳入総額	15億3,718万3,277円
歳出総額	15億2,574万4,445円
歳入歳出差引残額	1,143万8,832円
執行率	---

国民健康保険や簡易水道事業、介護保険など、合計8つの特別会計があります。

こんなことが決まりました

令和2年第2回臨時会
11月30日
令和2年第4回定例会
12月15日、16日、25日

令和2年度一般会計ほか補正予算を可決

- ✓ 新型コロナウイルスワクチン接種・高齢者インフルエンザ予防接種事業 3,143万円
- ✓ 用地購入(扇浦) 1,799万円
- ✓ 資源・有害物リサイクル事業(PCB運搬)費増額分 1,935万円

インターネット接続サービス事業に関する条例の一部を改正

これまで村が行っていたインターネット接続サービス事業が民間に移行するため、利用中止届、利用料の特例について決めました。民間移行に伴い村のインターネットサービスの利用を中止する場合は届け出が必要なくなります。また、母島は令和3年1月分以降、父島は2月以降の利用料は納付の必要がありません。

沖村浄水場改良工事(着水井他)土木請負契約の締結(専決処分)

1. 契約の目的 沖村浄水場改良のため
2. 契約の方法 指名競争入札
3. 契約金額 1億450万円
4. 契約の相手 杉田建設株式会社小笠原支店

職員の給与に関する条例などを改正

1. 人事院勧告に基づき、村役場職員、議員、村長ほか特別職、会計年度任用職員の期末手当の支給率を減らします。
2. 新型コロナウイルス感染症の患者(または疑いのある者)の診療・看護や、新型コロナウイルスが付着したものを処理する作業に対して、作業手当を創設します。手当の額は1勤務3,000円または4,000円です。

指定管理者の指定

村の保有する施設の管理運営の委任する団体を、次のとおり指定しました。
(指定の期間 令和3年度～5年度)

管理を委任する施設	指定した団体	施設管理費予定額(3年合計)
地域福祉センター	小笠原村社会福祉協議会	6,727万7,619円
奥村運動場	小笠原村社会福祉協議会	2,145万6,801円
コース記念館	小笠原母島観光協会	1,016万8,245円

このほかの議案などの審議結果は、小笠原村ホームページ⇒各課のページ「議会事務局」⇒会議録「会議録検索システム」をご覧ください。

築館俊一議員



有料老人ホームについて

築館議員 前回母島には有料老人ホームは作らず、デイサービス、ホームヘルプサービス、ショートステイなど、在宅サービスに力を注いでいく、介護予防事業の充実を図ると考えていると答弁したその後の経過は。

村民課長 在宅サービスのほか、サービスとして診療所を通い、理学療法士による訪問リハビリ、福祉用具の貸し出し、特定福祉用具購入、住宅改修がある。介護用ベッド、車いす、また移動する手段としてセニアカーや歩行器など、自宅の安全を確保する手すり、スロープ、ポータブルトイレ、シャワーチェア、可動式手すり等、村が介護保険外で介護サービスがある。村独自の要支援者また介護予防対象の方へのほがらかサービス、食事サービスをしている認知症予防防止として、らくらくカフェを設けている。今後も村としてできる限りサービスメニューの充実努める。

築館議員 母島島民が太陽の郷に入所した時面会するには、1～2泊しなければならず、家計の負担がある。父島に出向くには不自由さがある。村として配慮をお願いしたい。

村民課長 母島には同様の施設を設置するのが難しい中、母島の方が父島の太陽の郷に入所した場合、親族が面会する場合、父島の方との負担差が生じることとなる。施設より来所要望をお願いすることも考えられる。そのことも含め、令和3年度から実施できるようにかかる予算について、新年度盛り込むこととした。

片股敬昌議員



2024年度から森林環境税が徴収されることに関して、及び、類する環境対策について

片股議員 環境税とはどのようなものか。

財政課長 我が国の温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止を図るため、市町村森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保する観点から新たに制度化された税。2024年度から1人年額1,000円が課税され、その税収は全額が森林環境譲与税として市区町村へ譲与される。

片股議員 温室効果ガス排出量削減のため、焼却ごみ量を減らす取り組みについては。

環境課長 母島で生ごみを活用し、リサイクルする方法は本村における持続可能な成功例と考えているが、父島においては簡単ではない。「ごみ対策推進会議」の中で村民と一緒にごみの減量化・リサイクル促進を企画検討していきたい。

片股議員 焼却炉の維持管理コストを減らす今後の取り組みについては。

環境課長 水分を含んだ生ごみ等は焼却効率を下げるので、村民の皆様には十分水切りをしてからごみとして出すよう、再度お願いしたい。

片股議員 レジ袋は当村では年間どれくらい焼却されているか。

環境課長 令和元年度焼却処理総量が554トンで、そのうち約3.8トンがレジ袋。

片股議員 レジ袋対策は、総焼却量からみるとごくわずか。環境への第1歩と理解した。

一般質問

清水良一議員



脱炭素社会への取り組みについて

清水議員 2050年に温室効果ガスゼロを日本でも目指すことが発表された。当村における現状と取り組み内容は？

総務課長 令和元年度村有施設電気使用量は237万8,550キロワット。ここ数年横ばいだったが前年に対して35万5,000キロワット900万円弱の節電となった。

環境課長 職員の節電意識の向上、LED照明、省エネ仕様の機械設備への交換、故障太陽光パネルの交換、冷房の適正温度設定、父島クリーンセンターについては焼却運転の計画的停止等により節電効果が上がった。

建設水道課長 屋根一体型シリコン太陽光パネルの塩害による故障が多発、令和元年10月より保守点検業務委託により不良パネルの交換を行う。扇浦交流センターについては、蓄電池のチャージ分みのみの発電、発電能力の10%の稼働。

清水議員 節電の成果が出てきているようだが、扇浦交流センターについては蓄電池容量の増強と、この施設を核に扇浦分譲地地区を独立系再生可能エネルギーエリアとし大規模災害時の避難者受入地区を目指してはどうか？

総務課長 扇浦交流センターの余剰電力は東電への売電を目指す。

村長 優先度を見極め一つ一つ歩みを進める。

扇浦浄水場跡地整備後の園地について

清水議員 名前を公募し開園の際には何かイベントを企画しているのか？

産業観光課長 便宜的に扇浦園地という名称を使っているが名称を公募する考えはない。自然発生的に愛称で呼んでいただければと考えている。供用開始の際にはセレモニーを行いたい。

安藤重行議員



孤独死に対する村の取組、対応について

安藤議員 小笠原村として孤独死対策の取組実施状況及び孤独死支援システムの今後の対策はどう取組んでいるか。

村民課長 高齢者の生活安全確保を目的で介護保険制度の訪問介護等のサービス提供体制が確立、保健師等が定期的に訪問・面接で状態を把握し支援。村内各関係機関との情報提供の共有で状況に合わせて独居高齢者へ対応。

その他の質問・要望①見守り事業のシステムの導入。②包括支援センター人材確保と職務の軽減化を図り雇用方法の検討等と場所の確保を要望

新型コロナ以降全国で増えてきている自殺者への対応、取り組み状況

安藤議員 コロナ以降増加の自殺者で中高生は深刻化。10代女性の自殺が去年の4倍増。10代～30代の死亡原因1位が自殺。子供達の命を守る為に家庭、学校、地域が協力し変化を見落とさない見守り・気付きが必要。対策は十分か。

教育長 コロナ偏見・差別の防止の取組み、児童生徒の小さな変化を見逃さない取組を実施。健康チェックシートを毎日確認し子供の健康状況把握に努め学校家庭で見守る体制構築。

村民課長 ゲートキーパーの活用と講習会で地域理解を深める。人材育成推進。

その他の質問①スクールカウンセラーの取組み②自殺危険サインに気付けない場合の防止課題③ゲートキーパーの養成講習会の拡充推進要望

金子 隆議員



有人島におけるネズミ対策について

金子議員 関係機関の取組状況は。

環境課長 平成27年度より「有人島におけるネズミ対策にかかる行政連絡会」において情報共有と連携をしている。希少植物の保全対策、集落域のネズミ一斉防除、カゴ罠の貸し出し、農業者への殺鼠剤等購入費補助などを実施し、ネズミ増減傾向のモニタリング調査等も行っている。また、アンケートや広報を通じ、村民の意向確認や自主防衛への協力、理解を呼びかけてきた一方、有人島は、規模、技術面、社会的合意形成等の課題が多く、短期的なネズミ排除は困難。これまでの知見や国内外の事例を踏まえ、抜本的な対策を見出していきたい。

金子議員 優先して取り組むべき課題は。

環境課長 集落域・農地でネズミが増加したという声が多く寄せられ、野ネコ排除の影響も考えられる。ネコ・ネズミ対策へ理解と協力を得ながら対策の強化を進め、アカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリの生息環境と、絶滅が危ぶまれているオガサワラカワラヒワの保全にも寄与する事を期待。

金子議員 昨今のオガサワラカワラヒワ保全の講演会やワークショップでも、ノネコやネズミ対策が重要とされる。ネズミ根絶へ向けて、村民の声と関係行政機関との懸け橋になるべく、村がリーダーシップを発揮されることを望む。

稲垣 勇議員



母島の未執行业の今後について

稲垣議員 令和元年10月の台風による災害復旧事業を始め、島内の各種施設の工事等について令和2年度事業の未執行が続いていると聞く。原因及び今後の対策について問う。

母島支所長 母島支所における各種施設等の工事や維持補修等については、国及び東京都の積算基準等により設計を行い、施行時期の検討や施工方法の効率化を検討したうえで、事業執行を行っている。

請負事業者とも綿密に調整を行いながら現場対応を行っている。昨年10月の台風以降、東京オリンピックや台風災害などにより、内地において工事需要の増加など要因があり、その影響が少なからず母島島内の仕事において発生している。母島島内の工事や災害復旧工事等を執行するにあたり、工種によっては工事資材や機器の確保、作業員の確保が難しくなっている。生活基盤の確保を念頭に置き、工事施工の方法、可能性などを勘案したうえで優先順位を検討し、令和元年度に実施の見込みの立たないものは令和2年度での対応をしていく。

稲垣議員 父島と母島では、事業者の規模などに違いがあり、母島島民の生活に不安が及ばないよう安定的な事業執行が必要で、そのためには村内事業者の体制のあり方などの検討が重要と考える。父島、母島のこうした状況の違いなど、東京都や国などに理解してもらいたい。

村長 特に東京都とは綿密に母島の事情など意見交換を行い、効率的な執行ができるよう母島支所及び建設水道課に指示していく。

令和3年第1回定例会会議日程表（予定）

月 日	開始時間	会議名	内容
3月17日（水）	午前10時	本会議	会期の決定、一般質問等
3月18日（木）	午前 9時	総務委員会	
	午前11時	硫黄島調査特別委員会	
	午後 2時	小笠原航空路開設推進特別委員会	
	午後3時30分	本会議	議案審議、予特設置
3月25日（木）	午前 9時	予算特別委員会	
3月26日（金）	午前 9時	予算特別委員会	
	午後3時30分	本会議	議案審議、予算採決等

本会議、各委員会は傍聴できます。開会5分前まで傍聴受付を行っています。
またテレビ11チャンネルで中継放送を、また、Youtubeでライブ配信を行っています。

Youtube bonin live5 で



議長出張報告



出張日	出張先	出張の用務（同行者）
11月24日	環境省	世界自然遺産関連予算枠拡大を求める要望活動（議員1名）
11月25日	令和2年度東京都島嶼町村議会議長会総会及び第64回町村議会議長全国大会	大会出席

編集後記

令和2年の小笠原は、暮れに近づいても雨が異常に多く、台風が少なかった半面波浪注意報が良く出るようになり、梅雨が来たような憂鬱な気分が続く毎日でした。未だコロナウイルスは収束せず、振り返ってみるとコロナで始まりコロナで終わる1年でした。年が明け、1月に入ると2度目の緊急事態宣言が発令されました。またしても自粛要請を余儀なくされ、島民が楽しみにしていた各イベントが延期や中止になるなど、生活環境や価値観は大きく変わりました。その中で島民一人一人が考え、行動を起こす時だと思えます。今年是世界遺産登録後10年目に当たります。これまで一定の成果を見ましたが、それを検証し、各団体の代表を集めて、今後においての村として難しい問題を解決する策を議論することが望ましく、実現に向けて話しかけをしたと思います。

築館俊一

★議会だより編集委員

安藤重行 清水良一
築館俊一 金子隆
★

新型コロナウイルス感染症対策

9月の前委員会以降の感染防止対策や支援策の実績などについて報告を受けました。

委員からの質問

問 竹芝港でのPCR検査の受検率は。(清水)

答 おおむね60~70%。11/27便から郵送での検体提出も開始し、80%を超える便もある。(総務課長) ※1/7便は受験率92%でした。

問 11月、父島で陽性判明者が出たことにより、診療所が2日間休診となった。医療体制の支援について都と調整を取っているか。(杉田)

答 できる限りの支援をいただくと話している。(医療課長)

(その他の質問)

・感染に関する広報のあり方(杉田)・新型コロナ対策支援寄附金について(清水)

小笠原諸島世界自然遺産

9月の前委員会以降の動きと今後のスケジュールについて報告がありました。

委員からの質問

問 動物対処室での避妊去勢手術は継続するか。(金子) **答** 継続する。(環境課長)

問 油汚染鳥類の救護体制は。(金子) **答** 課題の一つ、研修等実施したい。(環境課長)

問 ネコの飼い方などをきちんと周知しては。(稲垣) **答** 小笠原は室内飼養が適正。動物協議会と協力し飼い主の方々に理解を求めていく。(環境課長)

問 世界遺産登録10周年となるが、何か予定はあるか。(片股) **答** 6月ごろ、内地で環境省が式典を行う。(環境課長)

問 固有林生態系保全修復事業で行う弟島・兄島・母島の植栽は、樹種は何か。(清水) **答** タコノキ。(環境課長)

問 気候変動緊急事態宣言を出す考えはあるか。(清水) **答** 小笠原村という小さい自治体が宣言を出す意義を、もう少し考えたい。(村長)

問 オガサワラカワラヒワの保護について、資金の確保への取り組みは。(安藤)

答 環境省の保護増殖事業計画に基づき、各機関で必要な予算を確保していく。民間からの資金なども情報収集をしっかりと行いたい。(環境課長)

その他の議題

- JAの新設分割・母島簡易郵便局
- インターネット接続サービスの民間移行について

東京都の動き

- ▶都庁総務局行政部内に、小笠原・国境離島担当部長を配置。(10月16日)
- ▶小池知事が国土交通大臣環境大臣に面会、要望書を提出。(10月21日)

要望内容

航空路の整備に向けた具体的な調整を進める段階において、財政措置も含め特段の配慮を。また国交省へは飛行場の建設や、航空機の導入等に関する支援協力、環境省へは世界自然遺産の関係機関との調整等への支援協力を要望。

▶都議会定例会の代表質問で、三宅正彦議員が航空路の開設を含めた小笠原諸島への取組みについて質問。(12月8日)

▶令和3年度の航空路調査費、前年度と同額の4億9000万円を要求。

問 調査の内容は。(清水) **答** 予算確定後の3月の委員会で報告できると思う。

(企画政策室長)

硫黄島調査特別委員会 12月16日

在沖海兵隊による訓練

▶在沖縄米軍海兵隊による訓練(高機動ロケット砲HIMARSの展開通信訓練)が、10月10日実施された。航空機3機、20名で実施。

問 訓練に使用するのどのようなロケット砲か。(杉田副委員長)

答 GPS誘導ロケット弾6発や射程距離数百kmのミサイルも搭載できる自走多連装ロケット砲。射程距離は10km。今回の訓練では、実際にロケットを発射するのではなく、駐機場格納庫などでの展開訓練を実施。(副村長)

遺骨収集帰還事業

▶第2回(9/23~10/7)19柱、第3回(11/1/~12/2)16柱収容。

その他の議題

- 基地交付金
- FCLP、その他の訓練、馬毛島に関する情報
- 平和祈念墓地公園管理事業
- 旧島民墓参、旧硫黄島民の会の集い
- 戦没者慰霊追悼式、慰霊巡拝事業

タブレット議会始まる

～小笠原村議会の歴史に残る、ペーパーレス化への挑戦～

清水良一

議員になりたてのころ、議会での資料の多さに驚き、先輩議員に議会終了後資料をどうしているのか質問したところ、ほとんどのモノは即座に捨てることと答えられビックリした記憶がある。議員になって6年目、私の家でも資料があふれかえり私もほとんどの資料は捨てることにしていた。また、過去の資料を探すことにも時間がかかるようになっていた。

コロナ禍の中、世界が大きく変わりテレワークやリモートワーク、ワーケーション、リモート会議とICT化が加速している。小笠原村議会は5年前よりペーパーレスを目的にタブレット端末によるICT導入を検討していた。私も先進地である逗子市導入事例の講演会へ足を運び、小笠原村議会にも早急に導入すべきだと感じた。内地出張時に議員全員で体験会に参加しながらタブレット操作に慣れ、紆余曲折はあったが全議員が納得し、導入のための予算化をすることとなった。また、議場に持ち込めるものの中にタブレット端末を入れられるよう会

議規則を変更した。

そして11月と12月に議員と幹部職員は、コロナ禍ということもありリモートによる講習会を受け、いよいよ12月の議会からタブレットを使った議会が始まった。今回の議会については紙とタブレットの2本立てで臨むこととなり、村職員の方たちにはかなりの労力だったと思うが、今後、紙の資料がなくなれば準備にかかる時間は削減されるという感触を得たのではないかと感じた。

12月15日、小笠原村議会の歴史に残るタブレット議会が始まった。紙の資料とタブレット内の資料のページがずれていたり、まだ慣れていないため資料のページを見失ったりと少しの問題はあったが、初めての使用にしてはかなり上出来だったと思われる。また、今議会では決算特別委員会も開かれたが、父・母島の現地視察時にこのタブレットで画像を撮り、自分の議会資料に添付したりもした。ただタブレットが一つということもあり、決算書や予算書は紙のモノが必要だと感じた。

当初はペーパーレス化と議会準備事務の軽減化が目的だったが、今後議会の質を高めるツールとして期待している。

また島民に魅力的で分かりやすい議会、より素敵な村づくりのため、画像や動画を交えた資料を島民とシェアできるよう、リモートによる報告会等にも活用していけるものだと感じた。

